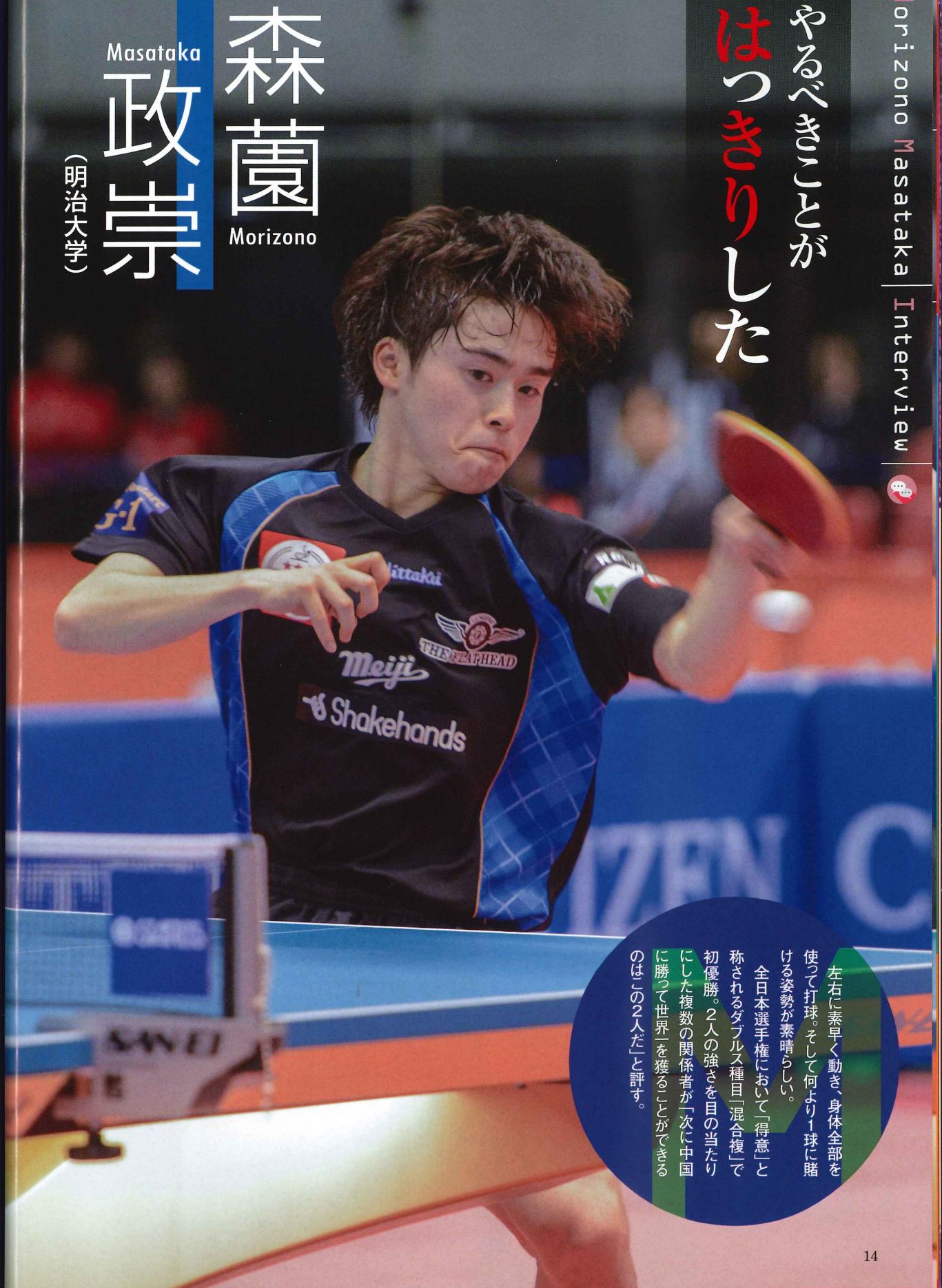


やるべき」とが はつきりした



Masataka
森薦
(明治大学)
Morizono

トラウマだった「混合複」

「混合ダブルスはセオリーがあって、男子選手がパワーを活かして、女子選手が早さで勝負する、と考えています。私は元々パワー選手ではありません。

美誠とペアを組んだのは2015年のアジア選手権。その時はベスト8で、メダルも獲れませんでした。美誠とペアを組んでメダルすら獲れない。情けなかつたです。

ユーバーシアード競技大会でもミックスで活躍できず、自分の中では2015年のアジア選手権が相当なトラウマで、姉（美咲・日立化成）からも『全日本選手権に出よう』と誘われていたのですが、断り続けていました。

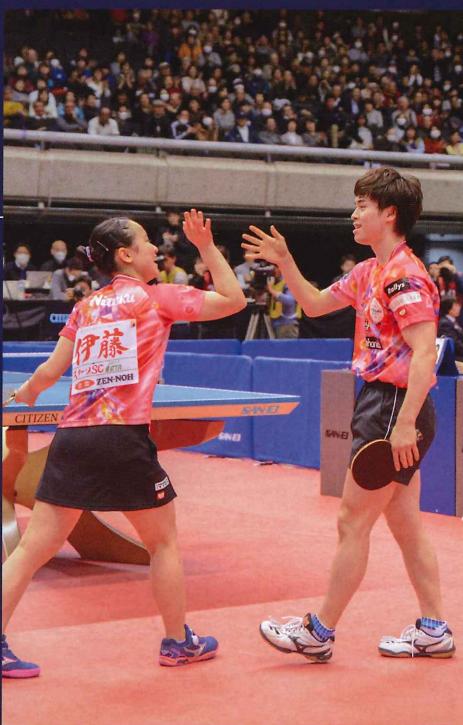
2017年のアジア選手権でもう一度チャンスをいたなくことができ、そこでの前は何がダメだったかを洗い出しました。

お互いの遠慮、たつたり、台との距離感の違いがあり、お互いの特徴が生きるようには『はやさ』を意識しました。それが上手いとき、中国ペアに勝って準優勝することができた。中国選手に勝てた、そのことがかなり自信になりましたね」

オール3-0で初優勝

伊藤美誠選手（スタートSC）と組んだ混合複は3回目。今回の全日本選手権では、競り合ひとなるも、オール3-0。結果だけで言うと「完勝」であった。

シングルスでの躍進



森薦のチキータレシーブは、どんなサービスにも対応。一発で得点をあげる威力がある。伊藤は相手に攻撃を読まない多彩なテクニックがある。また2人の打点は異常ともいえるほど早い。対戦相手としてはラリー戦に持ち込んだ少しでもペースを乱したいが、それでも許さない。

「優勝できたことは素直に喜べます。競り合いながらも最後になんとかできる、たくましいペアに育つたかな、と思います。

ランク決定戦で、それまで実績のある田添前田組と対戦。負けてしまふとお互いが出場権を失ってしまう（現時点では、登録都道府県が違うため、強化本部推薦でしか出場が認められないため）。2人の気持ちを背負つてこれからも戦つていきたい、と思います」

した。

実は不調でしたが、夏のインカレの頃から復調してきたかな、と思います。

チャイナオープン、ジャパンオープンと続き、体力的・精神的に厳しい状態。そこで5日ぐらい休み、用具の微調整を行いました。

練習内容も、アジア選手権で平野美宇選手（JOCエリートアカデミー／大原学園）の練習を参考に、早いタイミングでの切り返し、現実ではありえないタイミングの多球練習など、すごく単純な練習だったのですが、凄く楽しく練習できました。

今の大目標は、2020年の東京オリンピックで、ここに選手としての「資質」があると思います。3位という結果に満足はしませんが、上を目指している過程でも、結果に対しては、どこかで満足した方が良いと考えます。今年はここで納得をして、直す部分、良くなる部分を練習していきます」

今の最大の目標は、2020年の東京

「チャンスをモノにできるか、できないか。ここに選手としての『資質』があると思います。3位という結果に満足はしませんが、上を目指している過程でも、結果に対しては、どこかで満足した方が良いと考えます。今年はここで納得をして、直す部分、良くなる部分を練習していきます」

左右に素早く動き、身体全部を使って打球。そして何より1球に賭ける姿勢が素晴らしい。全日本選手権において「得意」と称されるダブルス種目「混合複」で初優勝。2人の強さを目の当たりにした複数の関係者が「次に中国に勝つ世界一を獲る」とができるのは「この2人だ」と評す。

ホープス、カデット、全国中学、インターハイ、そして全日本学生で3回優勝。各カテゴリーで結果を出してきた森薦。しかし前回までの全日本選手権ではベスト16が最高の成績。昨年は初戦敗退と相性の良くない大会である。

しかも2017年は森薦にとって不調の年であった。

「初めて混合ダブルスに登場して、自分が動くまで試合ができる、シングルスに臨めたので、落ち着いてプレーできま

した。あと、今考えると、ダメだった理由は私生活だったと思います。考え方と私生活が悪かったら、卓球も良い結果が出るわけありません」と話す。

全日本選手権は、何年かに1回の割合でチャンスが訪れる、と森薦は話す。

「初めて混合ダブルスに出場して、身

が動くまで試合ができる、シングルスに臨めたので、落ち着いてプレーできました。春からはプロ選手として活動する予定。全てを卓球に捧げ、夢を実現していく。彼の人生が楽しみだ。